

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

時事新報

第三千四百四十七號
明治廿四年九月三十日 水曜日
舊曆辛卯八月二十八日(巳未)
出刊時間 午前七時三十分
入館時間 午前八時三十分
月入金 四元二角五分
半年入金 二十三元
年入金 四十二元
郵費在內 郵便掛金 二角五分
廣告刊費 別表

時事新報定額
時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細の商況物價報告あり其代價運送料廣告料は左の如し
一 一箇月 四元二角五分
一 三箇月 十二元
一 六箇月 二十三元
一 一年 四十二元
○ 郵費在內 郵便掛金 二角五分
○ 廣告刊費 別表

一行	五	十	十五	二十	二十五	三十	三十五	四十	四十五	五十	五十五	六十	六十五	七十	七十五	八十	八十五	九十	九十五	百
----	---	---	----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	----	-----	---

本社(寄稿)に付

東京府下を始め各府縣に通信社あるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を編纂するより各社同一の記事を掲ぐるものと雖も其獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずとも世間往々此事を知らずして通信社に之を報道すれば本社にも其報道は達する事と信する方多きが如し爲りに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論説を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんとを請ふ

時事新報

海軍士官養成に就て

我輩が前日の時事新報に述べたる説には當局者中或は異論の者もあるよし傳ふれども海軍擴張の説ある今日に際し當局者も洗石に現在の儘にて満足なりとは信せざるものとすらん我輩の所見を以てするに目下我國所有の軍艦を以て差當り成し得べきだけ遠洋航海を擴張し士官水夫の熟練を發達せしめんには先づ露領浦羅德邊より朝鮮の海港支那の諸要港、英領香港、新嘉坡邊へ掛け常に三隻の軍艦を派遣し置き又南ボルネオ、フィリッピン、澳洲邊へ掛け一隻の常備艦を置き又朝鮮大陸の北はヴァンクハ、桑港より南は智利海岸へ掛け一隻を派遣し折々はハワイ島をも見廻らしめ加ふるに三年に一回位は其大小に關せず一二隻位の軍艦を地中海より歐洲の諸要港を巡回せしむる等の用意は實地演習の爲めに必要のみならず間接には海外諸國に我海軍の重きを成すの利益も少からざる可し

又今の海軍大學校の如きも高給の外國顧問を雇ひ入れ中將の校長其他從屬役員教官の多くして備はれるに對し毎年度に三十名内外の練習生を出すのみでは少く不約合の歎かれは是れも擴張して三十の數を二倍もしくは三倍し練習を終りたる士官は直に遠洋行の軍艦に乗組せしめ又四年以上も海上勤務に従事したる士官は必ず大學校に入り練習せしむるの制を定め上は大佐より下は少尉に至るまで此制を履せしむるものと爲す可し斯くの如く順換の法を以て學術と實地との研究を獎勵するものと爲らざるべきは我輩の期するが如く今より二十五年乃至三十年にして先進諸海軍國に匹敵する士官を得るものと敢て難きを非ず世間に傳ふる所に據れば今の海軍の佐官以上には間々航海術の極

初歩なる毎日推歩測とも謂らざるものあり又或る艦長の如き艦の運用は副長に航路測量は艦長の尉官に委任して自からは全く其任務に當らざるものありと云ふ實際の事實如何は知らざれども兎に角に士官養成の方法を實施するの一日も忽にす可らざるは我輩の信じて疑はざる所あり

北海遼東千島邊に於ける艦隊監視の如きも是れ又軍艦實地演習の一事業として其季節には一小軍艦を派遣して監視に従事せしむる必要なる可し此事に就ては世人も兼て熟知する如く數年來外國の海軍者に奪はれたる國利は之を金に積りて數百萬圓の巨額にも上るものとされども未だ嘗て一隻の海軍艦を捕獲したるの談を聞かざるは外人をして我海軍の不行届あるを冷笑せしむるのみならず第一海軍が日本國に對する任務を失きたるものと云はざるを得ず或は千島近海は海霧深くして航海に難く又軍艦を碇泊する長港もなしとの口實もあらんかれども彼の海軍艦の如きは僅々四五百噸の小船に過ぎず而も乗組員は何れも處定めぬ鳥合の漁業者にして其人數とても至て少なきに今一小軍艦の乗組六七十人にて相應の武器をも備ふるものが軍艦の航行し得る場所を航して之を取押へるも能はずとせば事實にあるまじき談にして我輩の決して信するべき能はざる所あり或る人が米國在留中露海軍の艦長なる米人に就き實話を聞きたるに我北海遼東に於て年々彼等が占むる所の利は非常にして實に驚くべき程なりと云ふ最近英佛間に英領カナダの漁業に關する争あり又英米間に我千島の北東なるベーリング海峡諸島の鰐魚漁業に就て英露を生じ今に其局を結ばざるは世人の能く知る所なり漁業は國權に關するものと大なるものにして之を等閑に付す可らず海軍の當局者は入りては内閣の一政務官たるものなれば國權に關する大事には深く注意すべきものとにして軍艦構造を主とする武人的の意見のみにては未だ海軍擴張の精神を盡したるものと云ふ可らず事の序に一言するものあり

雜報

○ 墨其西國、公使を派遣せんとす。墨其西國へは將來我國より人民を移住せしむる事もあるべければとて我政府は今度同國に領事館を置き米國、英、露、日、佛の書記生たりし藤田敏郎氏を領事代理として已に彼國へ派遣したる事はさる頃の本紙に記載せしが同國政府は殊の外我政府の好意を喜びたるものと見え今度公使を我國に派遣する事に決しラスコンと云へる人を撰定し其隨從者の中には同國にて有名なる文學士某もあり遠からずして出發の途に若くべしと或る方へ通報ありしとす

○ 軍艦武藏、釜山に着す。近來朝鮮にては京城の模様と云ひ濟州島の事と云ひ何となく程からざる景色ありより我政府は此頃函館に碇泊せし軍艦武藏を朝鮮に派遣せしが同艦は去る二十六日釜山に着したるよし其筋へ電報ありたれば昨今は多分仁川に到着したる事ならんと云ふ

○ 特別縣制の請願に就て。愛知縣下名古屋市にては同市會より委員を出京せしめて特別縣制の實施を請願せしも未だ其許可なければ同市會并に同市郡に屬する縣會議員等は屢々會同して特に事務所を市役所内に設け更に右の請願に盡力中あるが市内に於ても二百餘りの各町を二十餘組に分ちて夫々委員を設け續々請願書を差出さんと奔走し居るよしにて此程は市會及び市郡縣會兩議員一統の集會を開き協議の上一旦從來の委員を解き更に市會に於て請願委員を撰舉し神戸、横濱、廣嶋等の各市と氣脈を通じ帝國議會の開院に先だちて出京せしめ一方には請願書を其筋に提出し他の方には貴衆兩院の各議員を叩きて事情を開陳し飽く迄其の目的を達せんとすの議を定め一般市民に於ても同様非常の熱心にて該請願の旨趣を貫徹せんと共に意氣込み居るよしあり

○ 縣會議員配當の改正。德島縣にては本年九月同縣會示第百號を以て縣會議員の人員配當を定めし中勝浦郡は二人、美馬郡は三人とありたり勝浦郡會は本月十五日此配當人員を標準とし田村英二、新開貢の兩氏を撰出し美馬郡會も亦同日三名の議員を撰出せり而して勝浦郡會にては當選者の一人田村氏が辭職したるを以て府縣制第九條の規定に基き去る廿六日其補欠選挙會を開致すべき豫定なりしに同縣知事關義臣氏は告示第百十九號を以て美馬郡に二人と定めたる勝浦郡の縣會議員を一人と改め始め三人と定めたる美馬郡の縣會議員を四人と正したるより同縣下にては前撰出の議員資格上に就て種々の議論あるよしあり

○ 正副部長會と政務調査會。自由黨の正副部長會は一日昨廿八日午後一時より例の如く同黨事務所にて開會し板垣總理を始め石塚重野兩幹事も出席して政務調査の件に付き協議したり又同黨の政務調査會は是迄火金兩曜日を以て開會せしが退々議會の開會期日も迫りたるに付き爾來は日々集會を開き各自擔當の政務を調査する等ありと云ふ

○ 陸地測量の必要(昨日の續)。事業の順序は大略前述の如くにして卒然爾を見れば頗る容易なるが如しと雖も實際は然らざして數百數月の工夫を積み山河測量の勞苦を重んじ各種専門の技手を使用し始めて其功を奏するものあり當局者は夙に此事業の速成を企圖し先づ測量費補助の爲め百餘萬の計畫を盡し漸次年額を増加して二十萬圓餘に達したれども如何せん事業の宏大なる其完成年限を短縮する能はず現今陸地測量部の經費に適應する毎一十年の業程三百五十方里の測量を施行し之に準じて地圖を製造するを期すれば其完成の期は尙は將來二五年後以後)六十八年の後に在り然れども陸地測量の學は前述の如く一日も忽にす可らざるを以て昨明治廿三年八月を以て從來補尺二萬分一と定めたる地形圖を改めて五萬分一と改し唯肝要の區域のみに限り特に二萬分一と爲したれども現今の金額にては尙は殆んど五十年を要し爲めに數年費成したる測量手をも減せざる可らず如何と云れば方法改正の爲め測量手一人平均の業は一倍半の多きを加へたるも區域の廣大なる爲め毎測量手の使用する人夫旅費等増加して之を給するものと能はざるを以てあり果して此の如くなれば特に速成の爲めにしたる。其

法も費用の金額に制せられざるが如く此計畫を有効ならざるも尙は卅五六年を費すにせざる可らざるものにして好しむる使用するも其限二十年をせざるに更に特別の金額を支拂ふに別に出せしめ今測量部の定額に基本測量は之が爲めに此の後に至るやも知る可らず萬圓餘の定額金は今日に在るものなれども基本測量を遂行するの期に修正せざるを得ざるを遂げて増加し終には此全金額を果さざる可らざるものと云ふを果さざる可らざるものと云ふ今此目的に由り計畫するに方里の内明治二十四年度は五方里と既に完成したる準正を合して二千三百方里を以て此方里を以て此方里の見込なるを以て此方里を以て里を各三角及び地形に割充つる五百方里ならしめざる可らず金額は八百萬圓に對し各年陸地測量の事業たる前述の十五年年度以降に於て年々二五方里を得ず此増額たる現今少ならずるに似たりと雖も事業急なるに比すれば決して速成を期するに就て云ふべきは地質調査所山林局測量費なる地圖製に費す金額の三倍且つ將來地圖修正用の三百萬圓總額にても從前の計畫量費總額にても從前の計畫少し得るものなり又現行の計畫に完成する兩標の財本を五に假定して比較するに現行を費して五十年間に至るとは十六萬三千圓餘となり第二(多額に就て算す)を支出しては千四百九十二萬九千圓餘の方法は獨り地圖製用の急に對し上にも非常の利を見るものなり